

令和5年5月29日

令和5年

第5回教育委員会定例会会議録

大田区 教育委員会室

令和5年5月29日（月曜日）午後2時から

1 出席委員（5名）

小 黒 仁 史		教育長
三 留 利 夫	委 員	教育長職務代理者
高 橋 幸 子	委 員	
深 澤 佳 己	委 員	
北 内 英 章	委 員	

2 出席職員（12名）

教育総務部長	今 井 健太郎
参事（教育施設担当）	河原田 光
教育総務課長	鈴 木 孝 司
教育施設担当課長	田 中 佑 典
副参事（教育施設調整担当）	小 池 武 道
副参事（教育地域力担当）	長 岡 誠
学務課長	大 竹 豊 和
指導課長	細 田 真 司
指導企画担当課長	木 下 健太郎
学校支援担当課長	鈴 木 啓 介
教育センター所長	早 田 由香吏
大田図書館長	後 藤 清

3 日程

日程第1 教育長の報告事項

~~~~~

(午後2時00分開会)

○教育長

ただいまから、令和5年第5回大田区教育委員会定例会を開会いたします。  
弘瀬委員につきましては、あらかじめ本日欠席の届出がありましたので、ご報告いたします。

本日は、傍聴希望者がおります。

委員の皆様には傍聴許可を求めます。許可してよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○教育長

傍聴を許可いたします。

(傍聴者入室)

○教育長

大田区教育委員会傍聴規則第7条により、傍聴人は、議場における言論に対して批評を加え、または、拍手その他の方法により公然と可否を表明することは禁止されております。ご協力をよろしくお願いいたします。

これより審議に入ります。本日の出席委員数は定足数を満たしておりますので、会議は成立しています。

まず、会議録署名委員に高橋委員を指名いたします。よろしくお願いいたします。

続いて、本日の日程第1について、事務局職員の説明を求めます。

○事務局職員

日程第1は、「教育長の報告事項」でございます。

○教育長

令和5年第1回大田区議会臨時会が5月23日にございまして、教育長所信ということで、区議会議員の皆様には、教育委員会の所信を述べさせていただきました。その内容について、お話し申し上げます。

冒頭に、先日中学生が登校時に自宅の前で、刃物で刺されるという事件が起きましたので、そのことについて、最も教育において大切にされる子どもの命が脅かされたということと、当日は事故解決にあたり、学校と教育委員会が一致して対応に当たったことを申し上げます。

5月16日に臨時校長会を開きまして、子どもたちの安全・安心について、改めて協議し、再発防止に努めていくということをお話しさせていただきました。

幸いにも、生徒のほうは一命を取り留めまして、良かったなというところでしたが、思いのほか重症な部分もございまして、入院しているというような状況がございました。

次に申し上げたのは、本年度は5年ごとの大田区の教育振興基本計画である、おた教

育ビジョンの見直しを図るということを申し上げました。3期にわたる教育振興基本計画に基づいて、大田区の教育は、着実に改善が図られているということを申し上げました。

特に、子どもたちの学力の向上であるとか、自己肯定感の高まりなど、成果が見られているというところをお話しさせていただきました。

次に、この第3期のおおた教育ビジョンにおきましては、やはりコロナ禍によりまして、臨時休業とか、学校行事の縮小ということがあり、子どもたちの教育活動がかなり制限された面があったということをお話し申し上げました。

一方で、学校関係者の努力や、地域の方々、保護者の方々のご協力によって、一人1台のタブレットを利用した授業の改善であるとか、ものづくりを生かしたSTEAM教育、英語教育など、確実に進展した教育政策があったということを報告いたしました。

この新しい基本計画のテーマの中に、未来を創る力ということを重点に政策を展開してきたことを申し上げて、その中でも3点の例をご報告させていただきました。

1点目は、令和7年度から全ての小学校5、6年生で実施する新たな教科、「おおたの未来づくり」についてご報告いたしました。本年度は、小学校16校で研究実践をしています。

その例として道塚小学校を挙げさせていただきました。「ものづくりのまち大田、道塚カンパニー」という学習の中で、段ボールを生産する会社の社長から段ボールの特徴を聞くとともに、避難用の段ボールハウスを作って、その学習の様子を報告させていただきました。

他には、小池小学校と勝海舟記念館についてです。地元の金属加工の事業所と連携して、勝海舟生誕200年の記念グッズというのがあるのですが、それを作成したことをお話ししました。

記念グッズは、金属でできた本のしおりなのですけれども、ガチャガチャというか、カプセルに入れて、何が出てくるか分からないということを楽しむという、子どもらしい発想が生かされていました。金属の加工品をカプセルの中に入れるというのは、大田の技術が生かされていると思いますが、実際に一般の方に提供されるようなものづくりを通して、ものをつくり出す喜びであるとか、そういうことを体験した学習だったということを報告しました。

そのほかにも、地域には、義務教育に資する魅力的な教材がありますので、それを生かして、さらに発展させていきたいということを申し上げました。

2点目に挙げさせていただいたのは、大森第三中学校のコミュニティ・スクールの取組についてです。3月30日に、大田文化の森ホールで、大森第三中学校の吹奏楽部の子どもたちの演奏会が、第1回定期演奏会というかたちで演奏されました。

大森第三中学校は、非常に吹奏楽部の活動が盛んで、東京都でも金賞を取るような力があるのですけれども、その活動を地域のホールで、地域の方々に聞いていただくというような取組をしました。曲目のほうも、坂本九のメロディーなど、年配の方も意識して、とても良い演奏会でした。

私が大変印象に残ったのは、楽器を演奏する子どもたちが、音楽の先生の指揮をずっと目で追うのですね。それほど意識を集中している、真剣に取り組む姿でした。

その音楽の先生が最後のアンコールのときに、本当は卒業すれば、いろいろと楽しみた

いところだったけれども、3月30日までプライドを持って一生懸命練習に励み、この日を迎えた卒業生の人たちを褒めてあげてくださいという話がありました。

代表である部長が、吹奏楽部をまとめていく苦労などもお話ししたのですけれども、子どもたちの様子を見てみると、その音楽活動の中で非常に大きな学び、成長があったのだなというのが、よく分かりました。

また、学校の活動だけではなくて、地域の音楽活動として根付いていくというのが、やはりコミュニティ・スクールの一つの形ではないかということをお話しさせていただきました。未来をつくる学びの一つだと思います。

最後、3点目にご紹介させていただいたのは、不登校特例校 みらい学園のことでございます。不登校児童は増加傾向にあるのですけれども、その中でも、不登校特例校で、子どもたちが安心して、友達と和やかに勉強している姿を紹介させていただきました。

子どもたちが安心して学ぶ場を設けて、それをさらに発展させていくのが、未来に向けての学びかなと思います。みらい学園での学習の形が、通常の学校にも広がっていくような、そのような発展性があるのではないかというお話をさせていただきました。

それをまとめさせていただいて、最後に、子どもたちが創造的、意欲的に取り組んでいる様子の根底にあるのは、やらされている受け身の学びではなくて、自ら学んでいく主体的な学びです。大森第六中学校では、新たな教科の中で、未来をつくる力を反映しているのですけれども、その学びを見せていただいて、子どもたちが非常に主体的に学んでいる様子があります。

それで、校長先生にどうしてそういう姿勢ができるのか聞いてみると、なぜ学ぶのかという意義、意味をSTEAM教育でしっかりと自覚しているということでした。新たな社会づくりをしていくために学んでいることが意識付いていて、そのことが主体的に学んでいることであるということをお話ししました。

それから、「未来は今である」という言葉があるように、今、子どもたちの笑顔を作ること。それから、充実した学びをすることが未来づくりにつながっていくということで、私が教師のときの経験をお話しさせていただきました。

小学校5年生の男の子が転校してきて、その子は父親から虐待を受けて養護施設に入ったのですけれども、私の学級に来ました。当初、彼は嘘を平気でついでしまうような子どもで、自分はやっていないとか、そういうなかなか関わりの難しいところがあったのですけれども、私が指導していた学校のサッカーチームに、同じ養護施設から通っている子どもと一緒にきて、ゴールキーパーの手袋を用意してあげたら一生懸命練習するようになって、6年生のときに区の大会がありまして、3、4回勝ち上がって、決勝戦に進みました。

決勝戦で決着がつかず、PK戦をやりまして、彼は相手の5人目を止めて、最後のキッカーが彼で、彼が決めれば優勝だということでした。

それで、見事に彼は決めまして、非常に躍り上がって喜んでいる姿をよく覚えているのですけれども、まさにヒーローですね。活躍しました。

その数日後に保護者会があって、彼が通っている施設の寮母さんからお話ししてくれて、先日はありがとうございましたというような話を聞きました。

話を聞いてみると、その決勝戦の夜に、夕食のときに友達に金メダルをかけて紹介され

て、そのときは照れていたのですけども、夜、寮母さんが寝ている様子を見に行くと、そのベッドで彼が金メダルをかけて眠っていたのだということでした。

よく見ると、目元に涙を流していた跡があったということで、彼はすごく嬉しかったのでしょうかというようなことを言ってくれました。私も一つよいことができたかなと思いました。

そういうことで、非常に印象に残る子でしたけれども、中学校に行って一度だけそのサッカーをやっていた友達は遊びに来たのですけれども、その後、問題行動を起こして、ちょっと警察のほうのお世話になっているというようなお話を聞きました。

私が後悔しているのは、彼とのつながりというのは、一生懸命小学校のときは育てたつもりだったのですが、中学校に行って、全く切れてしまったということですね。

そういうお話をさせていただきまして、私は、目の前の子どもたちには、その場その場で精いっぱい関わって育てようとするのですけども、やっぱりそれが切れてしまう。それでは悩んでいる子どもたちを救うことができないということが続いていくのではないかと思います。

いわゆる切れ目のない包括的な支援というのを、これから子どもたちにしっかりとやっていくことが、重層的な支援体制と言われるものですが、全庁で取り組んでいき、それを推進していくことが必要なのではないかということをお話し申し上げました。

大田区教育委員会の目標には、最後に、全ての区民が広く教育に参加できる仕組み作りを進めるということで締めくくられているのですが、まさにその全ての区民の方が関わっていく、長く教育を作り上げていくのだということです。

新たに鈴木区長が就任されましたが、温かい笑顔あふれる大田区を作るということと、まさにそれが教育委員会の目標でもあるということをお話しさせていただきました。子どもたちが幸せで笑うような、そういう学びの場、生活の場を作っていくことが教育委員会の責務であるし、それに取り組んでまいりますということで、私からの発言を締めくくらせていただきました。

ちょっと長いお話になってしまったのですけれども、教育委員会として、笑顔あふれる社会、教育を作っていくというお話をさせていただきました。

所信については、以上になります。

ただいまの説明に対しましてご意見・ご報告等がありましたらお願いします。

### ○三留委員

オンデマンドで令和5年度の東京都教育施策連絡会の配信を受け、視聴いたしました。今、教育長から、おおた教育ビジョン策定の話もあり、今後の教育の方向性に関わって、3点、私なりの考えをお話ししたいなと思います。

1点目は、全体的に都として、児童・生徒を国際人として育成しようという方向性です。小池都知事は、豊かな国際感覚の育成を挙げ、都教委の浜教育長は、英語をツールとして使いこなすことができる英語力の増強を挙げました。

教育施策担当部長は、都の主な教育施策を話す中で、未来を切り開く力の育成のための新規拡充事業として、都立学校のオンライン英会話、英語のプレゼンテーションコンテストのほか、小学校のイングリッシュウィーク、中学校の英語スピーチコンテストなどを挙

げました。国際交流の様々な計画も示され、将来的にビジネス人材の育成につなげるというような話もあったように思います。

個別授業の説明では、東京都教育施策大綱の東京型教育モデルの重要事項の一つとして、グローバル人材の育成を挙げ、英語を用いて様々な人とコミュニケーションを図りながら、問題解決することは、今後、必須のことと話していました。そのためには、小中学校で培った英語力を高校でも伸ばし続ける必要があるとしていました。

いつでも、どこでも、英語の発信ができる条件を整えることが大切という話もあり、今後の大田区の施策のなかでも、検討してほしいと思いました。

具体的な事業としては、中学校スピーキングテストが紹介されました。中学校で学んだことで、自分がどれだけ話せるようになったかを確認するテストということで、タブレット端末を活用して、教材・解答を用意し、自分のレベルに合った取組ができるということです。今の自分の英語力に合わせて学べる、今後どう学べば良いかアドバイスを受けられるというシステムになっているということで、ぜひ区内の各中学校で生徒が、積極的に活用できるよう取り組んでもらいたいと思いました。

先ほど教育長から、児童・生徒の英語力が付いてきているという話がありましたけれども、担当者の説明を聞いて、今後、児童・生徒の体験的な英語学習の必要性というのを改めて感じたところでございます。

2点目は、課題解決型の学習についてです。これまで、問題解決的学習という言葉が盛んに使われていましたけれども、近頃は、課題解決型の学習という言葉が言われるようになっていきます。子ども自らが課題を発見し、主体的に取り組んでいくという方向性だと思っています。

基調講演、パネルディスカッションのテーマは、「学校の学び方、教え方、働き方を変える」で、基調講演1は、東京学芸大学教授の高橋純氏の講演で、タイトルは、「デジタルを活用したこれからの授業モデル」でした。デジタルを使用した授業を例に、「学校の学び方を変える」という話を中心だったように思います。一斉共同の授業から、個に対応した授業を一層推進すべきであるという主張の話でした。

デジタルの活用で言えば、先生の指示で一斉に端末を使う授業ではなく、子どもが自分のスタイルで端末を使う授業をしなくてはならないということでした。児童・生徒が、自分で学習計画を立てて課題に取り組む。先に進みたい子は先に進む学習への転換を話されていました。

複線型授業、自由進度学習にも触れ、自己決定、自己調整のできる学習者をつくるのが大切という話もされていました。

講演後の都の担当者の説明でも、課題解決型の学習を目指して、授業観、指導観の転換を主張していました。子どもの興味・関心に基づいた授業を目指して、一斉学習は問題提示とまとめのみとするなど、子どもは自立的学習者、教師が伴走者としての取組を進めたいとのことでした。

これは、都立学校を想定した発言とも思いましたが、このような授業、いわゆる先生が前方にいない授業を2割程度にしたいという発言もありました。

大田区の各小学校では、既に課題解決の学習に前向きに取り組んでいるところですが、都立学校も一層の授業改善に向かうということで、区内各学校でICTの活用も含め、課

題解決型の学習を進めてもらいたいと思っております。

3点目は、教員の働き方改革です。浜教育長は、教員の働き方改革による指導の充実を視点の一つとして話していました。そのために、スクール・サポート・スタッフ、エデュケーション・コーディネーターの配置を進めているということでございました。

基調講演2は、公益財団法人学校支援機構理事長、坂東眞理子氏による「教職員の創造性と働きがい高める学校づくり」というテーマの講演でした。

坂東氏によると、目標値である残業時間月 45 時間以下の教員数は、まだまだ少ないということです。日本の場合、学校教員に期待される役割の範囲が広く、知育、徳育、体育の全てを担っているところがあるとのことで、他の先進国では、知育以外で、家庭、教会が担う部分が大きく、学校がスポーツチームまでやるのは、日本だけということでした。

それどころか、いじめ・不登校対応、プログラミング、保護者対応、貧困問題、外国人児童・生徒の増加などにより、逆に仕事が拡大傾向になっているという話がありました。

そこで、教員の働き方を少しでも改善したいということで、デジタルを活用した職務の改善などのほか、自身が理事長を務める東京学校支援機構のサポーターバンクの紹介をされました。

サポーターバンクには、様々な資格・力量を持った人材が登録されているとのことです。外国人材によって教員の仕事を改善していくことが大切で、教員には、求援力・援助を求める力、受援力・援助を受ける力を高めようという話をしていました。遠慮なく助けを求め、SOSを出せるようにということです。大田区の学校でも、サポーターバンクなどによる信頼のおける人材の支援を受けて取り組むということも、大切だと思いました。

講演の後、パネルディスカッションは、「多様な人材を生かして学校をパワーアップ」というテーマで、小学校・高校の学校長とサポート人材からの話がありました。江戸川区には、学年アシスタントという制度があって、「担任が持ち上がらなくても、学年アシスタントが上がるということで、スムーズに新学期が迎えられた」「退勤時間が早くなった」「ストレスチェックでストレスを感じる教員が減った」「教材研究、教材についての話が増えた」というような話がありました。

都立富士高校の事例では、部活動指導員の配置により、「顧問が専門でなくても、管理顧問として関わることができる」「部活動指導員の引率により、教員は、空いた時間の有効活用ができる」「協議実績にもつながる」などの紹介がありました。どちらの学校も働き方改革につながっているだけでなく、子どもから見ても有用というような話がありました。

大田区は、他区市と比べて、学校に多様な人材を豊富に配置していると感じております。それぞれの学校で外部人材を有用に活用して、学校教育の活性化と教員の働き方の改善につなげてほしいと感じました。

#### ○高橋委員

1か月前になってしまうのですが、4年ぶりに大田区子どもガーデンパーティーが計画されたのですが、雨のため、前日に中止ということで、大変子どもたちも楽しみにしていたと思うし、準備いただいた方たちも開催のために大変な準備をしたのですが、実際にできなかつたことは、残念だったと思います。また来年に期待したいと思います。



もう1点、青少年対策地区委員会の事業で、リーダー講習会が今月開講されました。小学校5、6年生を対象に8回の講習があるのですが、今年はまだ宿泊講習はできないということで、毎月見学など、いろいろなプログラムを作っております。子どもたちが毎月、体験を通して成長する様子が、とても楽しみな講習会です。

また、6月3日、とても良い天気の中、羽田中学校と糺谷中学校の体育祭に参りました。練習の成果を十分に発揮し、それぞれの役割に励む姿勢が素敵でした。

保護者とともに、地域の方々も4年ぶりに参観したということで、大変盛り上がった体育祭になっておりました。

## ○教育長

ほかにありますか。

## ○北内委員

5月18日に、新区長とご挨拶する機会がありました。私からは、先の事件もありましたので、子どもたちの安全・安心がとても大切なので、改めて各地域での見守りや青パトの巡回への働きかけをお願いしました。

それから、5月8日月曜日に、館山さざなみ学校の指導訪問に同行させていただきました。児童たちは、生き生き伸び伸びと学校生活を送っているように見受けられました。先生も、少人数学級の利点を生かしながら、熱心に授業を進められていました。

昼休みと夕方の校庭開放では、子どもたちは走って校庭に出て、サッカーやボール投げなど、走り回っていました。

今週末の6月4日日曜日の「あわ夢まつり」での舞台発表に向けて練習を重ねていました。先生からも、ぜひ見に来てくださいねとお声がけをいただきました。大田区の児童たちが、千葉県館山市で活動発表をされるので、ぜひお伺いしたいと思っています。

それから、高橋委員からもありましたが、私も運動会を何校か参加させていただきました。5月20日に大森第七中学校、24日に志茂田中学校、27日に東調布第一小学校に参加させていただきました。

いずれも大規模校で、ほぼコロナ禍前と同じように児童・生徒全員と、保護者さんも無制限、地域と来賓の方々にも来ていただいて、非常に活気がありました。

大森第七中学校では、見回りに保護者、PTAだけでなく、卒業生の保護者たちで作ったP7という新しいグループもお手伝いしてくださっていました。

志茂田中学校では、本来土曜日の運動会が順延、また順延になって、水曜日に開催されました。水曜日だと、隣接する小学校の児童もいるので、小学生たちも出てきて一緒に応援していました。

東調布第一小学校の運動会では、表現体操では、児童たちが本当にキレイのダンスをして、まなざしが本気でしたので、圧倒されました。

また、徒競走は、5組を含めた男女混合で、ジェンダーレスでインクルーシブな教育を体現されていました。

運動会の運営にあたっては、先生たちだけでなく、地域の方々、PTA、親父の会の方々も手伝ってくれていると思います。感謝申し上げます。

最後に、大田区立小学校PTA連絡協議会が実施した、新大田区ウルトラクイズに参加させていただきました。これは、オンラインで小学校60校をつなげて、全30問のクイズ大会でした。約70名の児童が、オンラインでつながって参加をしてくれて、1名だけ30問全問正解者がいました。

会が終わった後、児童たちと懇談しました。児童たちからは、自分たちが企画運営をやりたい。クイズが親父チックで良くない。また、そのフライヤーも、こんなに楽しい企画なのに、もっと上手な宣伝を僕たちならできるから、来年度はぜひ児童たちが企画運営をやりたいと言ってくれていました。盛会のうちに終わりました。小P連の方々、ありがとうございました。

#### ○深澤委員

私は、先ほど教育長のお話を伺って感じたことをお話しいたします。サッカーチームに入っていた少年の話が、私の心にすごく響きました。子どもに達成感を味わわせてあげることが、その子の成長にとって何よりも必要なのだなということを感じました。

そのためには、学校でそういう機会を与えてあげる、チャレンジできるような場を与えてあげるといことも必要なのかなと思います。先ほどの教育長のお話の中で、大森第三中学校の吹奏楽部の演奏会の話が出ましたけれども、コロナも5類に移行し、これからいろいろと活動の場も広げるために、機会を提供していく必要があると思いました。

ただ、そのお子さんは、包括的な支援がなくて、なかなかその先までつなげてあげることができなかったというようなお話もあったのですが、一人の先生がお子さんの成長をずっと見守ることは無理なので、家庭での協力が必要ですし、家庭の協力が難しいようであれば、地域で見守っていく必要があると。それが、これからの時代にますます必要になってくるということ、教育長のお話を伺って感じたところでもあります。

#### ○教育長

ありがとうございました。

これもちまして、令和5年第5回教育委員会定例会を閉会とさせていただきます。

(午後2時37分開会)

令和5年 第5回 教育委員会 定例会 5月29日(月) 午後2:00～

教育委員会室

<教育長の報告事項>

<部課長の報告事項>

教育総務部長

参事（教育施設担当）

教育総務課長

教育施設担当課長

副参事（教育地域力担当）

副参事（施設調整担当）

学務課長

指導課長

指導企画担当課長

学校支援担当課長

教育センター所長

幼児教育センター所長

大田図書館長

令和5年5月29日

令和5年第5回教育委員会定例会日程

日程第1 教育長の報告事項